

は、朱雀と云し年號を白鳳とぞかへられにし。

〔一代要記天武〕癸酉歲太宰府獻三足赤雀、仍改元朱雀、即白鳳元年也。

〔東寺王代記〕天武天皇壬申元年建朱雀號二年○癸酉帝卽位改朱雀號白鳳。

〔吾妻鏡七〕文治三年十二月七日甲戌、天武天皇御宇二一○誤恐年八月、帝遷坐野上宮給之時、自鎮西獻三足赤色之雀、仍改元爲朱雀元年。明年三月自備後國獻白雉、又改朱雀二年爲白雉元年。同十五年自大和國進赤雉之間、改年號爲朱鳥元年。

〔年中行事秘抄下〕伊勢齋宮事

天武天皇白鳳元年四月十四日、以大來目皇女獻伊勢神宮、依合戰願也。

○按ズルニ日本書紀ニハ此事ヲ天武天皇二年癸酉ニ係ケタリ。

〔和漢合符天武〕癸酉十三或以是年爲白鳳元年備○後國獻白龜因此改元

○按ズルニ二トアルハ卽位二年、十三トアルハ白鳳十三年ナラン。

〔長等の山風附錄〕一代要記に箕面寺縁起を引て、癸酉歲太宰府獻三足赤雀、仍改元朱雀、即白鳳元年也といへるは、癸酉を朱雀の元年とし、其年また白鳳と改られたる趣なり、太宰府獻三足雀ことは、上に舉たる如く、壬申年の事なるを癸酉の年として、其年内に再白鳳と改られたる由にて、上に考定たる年立に合せては、朱雀の改元は、一年後れ、白鳳の改號は、一年前だちたり、紹運錄に、天武天皇を白鳳二年に卽位と記し、元正天皇を白鳳十年辛巳降誕と記し、文武天皇を白鳳十二年癸未降誕と記したる白鳳を、書紀、また亨年等によりて推考るに、これも要記と同じ年立干支に合へり、案ふに、こは下に論ふ如く、壬申年大友天皇の御世となりて、朱雀と改給ひ、二年癸酉に、又は、白鳳の年號を用ひ給ひ、其年の内に、天武天皇の御世となりて、朱雀と改給ひ、二年癸酉に、又白鳳を用ひ給へるを、然は混へたるにて、その年立に據りて記せる傳なるべし、此餘に、白鳳元